

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～18	日 本 史	20～35
世 界 史	36～49	地 理	50～57
数 学	58		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - ・解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

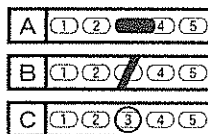
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(日 本 史)

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

白河・鳥羽院政が半世紀をこえたころ皇位継承をめぐって対立がおこった。1156(保元元)年に鳥羽法皇が亡くなると、以前より鳥羽法皇と対立していた崇徳上皇は、摂関家の継承をめざして兄の関白 (1) と争っていた左大臣 (2) と結んで、武士を集めた。これに対して、後白河天皇は、藤原通憲(信西)らの進言により、平清盛や源義朝らの武士を動員し、上皇方を攻撃してやぶった。その結果、崇徳上皇は (あ) 国に流され、上皇方に参加した武士の一部は処刑された(保元の乱)。^(a)

保元の乱後、院政をはじめた後白河上皇の近臣間の対立から、1159(平治元)年には、通憲に反感をいだいた近臣の一人 (3) が源義朝と結んで兵をあげ、通憲は自殺した。しかし、清盛の反撃にあって、 (3) は処刑され、義朝は東国へ逃れる途中、尾張国で殺された。この結果、義朝の子の頼朝は伊豆国に流され、源氏の勢力はおとろえた(平治の乱)。^(b)

保元の乱と平治の乱を通じて、動員された兵士の数は多くはなかったが、貴族社会内部の争いも武士の実力で解決されることが明らかとなった。^(c)後に慈円は歴史書 (4) で保元の乱後「ムサノ世ニナリニケルナリ」と記した。

平治の乱後、平氏は後白河上皇との関係を強め、政界における地位と権力を急速に拡大した。1167(仁安2)年、清盛の官は太政大臣になり、娘 (5) を高倉天皇の中宮とした。以後、一族の子弟が高位・高官についた。平氏の経済基盤は、全盛期には日本全国の約半分にはのぼる (6) と500余りの (7) であって、その点で摂関家と似ており、貴族的性格が強かった。清盛は日宋貿易にも力をそそぎ、宋商人の招来につとめた。^(d)そのため、 (い) 国の大輪田泊を修復するなど瀬戸内海航路の安全をはかった。また、航海の守護神とされた (う) 国の厳島神社の復興を援助した。

しかし、平氏は官職の独占を進めて支配の拡大をはかったため、しだいに旧勢

力から反発を受けるようになった。とりわけ後白河法皇の近臣との対立は深まり、1177(治承元)年には藤原 (8) ・僧の (9) らが、京都郊外にあった (9) の山荘で平氏打倒をはかり、失敗する鹿ヶ谷事件がおこった。

清盛は後白河法皇との対立を深めた結果、1179(治承3)年、法皇を幽閉^(e)し、関白以下多数の貴族の官職を奪う強圧的な手段をとり、翌1180(治承4)年には孫にあたる安徳天皇を即位させた。こうした権力の独占はかえって院や貴族、寺社、源氏などの反対勢力の結集^(f)をうながし、平氏の没落をはやめる結果となった。

問1 文中の (1) ~ (3) にあてはまる人名を、以下のア~オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------|------|------|
| ア 頼通 | イ 忠通 | ウ 頼長 |
| エ 忠実 | オ 信頼 | |

問2 文中の (あ) ~ (う) にあてはまる旧国名を、以下のア~オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------|------|------|
| ア 播磨 | イ 安芸 | ウ 讃岐 |
| エ 阿波 | オ 摂津 | |

問3 下線部(a)に関して、上皇方に参加し処刑された源氏の武士を、以下のア~オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ア 源為義 | イ 源頼義 | ウ 源頼信 |
| エ 源義親 | オ 源満仲 | |

問4 下線部(a)に関して、上皇方に参加し処刑された平氏の武士を、以下のア~オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ア 平正盛 | イ 平将門 | ウ 平忠常 |
| エ 平忠正 | オ 平忠盛 | |

問5 下線部(b)の旧国名について、この国と境を接していた国を、以下のア～オの中から二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 相模国 イ 武蔵国 ウ 甲斐国
エ 遠江国 オ 駿河国

問6 下線部(c)に関して、10世紀以降、実在の武士の活躍を描いた軍記物(語)が書かれた。軍記物に分類されていない作品を、以下のア～オの中から二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 保元物語 イ 海道記 ウ 吾妻鏡
エ 平家物語 オ 平治物語

問7 の書物は、ある戦いの計画をいさめるねらいもあって著されたといわれる。この戦いを、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 蒙古襲来 イ 一の谷の戦い ウ 壇の浦の戦い
エ 承久の乱 オ 屋島の戦い

問8 の人物は、後に(女)院号を与えられた。その名称を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 八条院 イ 待賢門院 ウ 美福門院
エ 建礼門院 オ 七条院

問9 文中の , にあてはまるもっとも適切な用語を、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 封戸 イ 位田 ウ 季祿
エ 莊園 オ 知行国

問10 下線部(d)の後、室町時代になると、將軍④によって、明との間で朝貢の形式をとった勘合貿易が開始された。その後、將軍⑤は、朝貢形式を嫌ってこれを一時中断させた。しかし、將軍⑥は、將軍⑤によって一時中断された勘合貿易を復活させた。以上の將軍④⑤⑥のどれにもあてはまらない將軍を、以下のア～オの中から二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 足利義教 イ 足利義満 ウ 足利尊氏
エ 足利義持 オ 足利義詮

問11 , にあてはまるもっとも適切な人名を、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 成親 イ 西行 ウ 俊成
エ 俊寛 オ 家成

問12 下線部(e)に関して、この時法皇を幽閉した場所を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 白河殿 イ 内裏 ウ 鳥羽殿
エ 六波羅殿 オ 西八条殿

問13 下線部(f)に関して、1180(治承4)年5月、後白河法皇の子の一人が、畿内に基盤をもつ源氏とともに平氏打倒の兵をあげた。この源氏を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 源頼家 イ 源頼義 ウ 源頼信
エ 源義親 オ 源頼政

〔Ⅱ〕 次の文章A～Cを読み、下記の問いに答えよ。

A. 江戸時代の農業技術の進歩はめざましかった。井原西鶴^(a)が著した『日本永代蔵』^(b)は唐箕^(c)や千石筵^(d)などの新しい農具についてもふれている。また、新しい栽培技術や農業知識を説く農書が数多く著され、広く読まれた。宮崎安貞^(e)が書いた農書は畿内の農村の実情を見聞して、肥料・農具・耕作・播種^(f)などの方法をまとめている。このようにして農業生産力は急速に高まり、農民は商品作物^(g)を栽培して販売し、貨幣を得るようになった。荻生徂徠が著した『政談』^(h)は、元禄⁽ⁱ⁾の頃から農村に貨幣が浸透したことを記している。やがて、それぞれの地域の風土に適した特産物⁽ⁱ⁾が全国各地に生まれた。

問1 下線部(a)と同じ元禄時代に活躍した人物に関するもっとも適切な説明を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

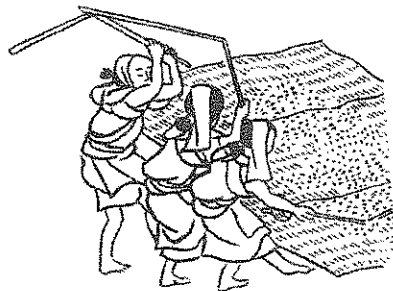
- ア 与謝蕪村は絵画にそのまま描けるような句をよんだ。
- イ 小林一茶は農村の生活感情をよんで、庶民である自分の主体性を強く打ち出した。
- ウ 松尾芭蕉は奇抜な趣向をねらう談林俳諧の創始者となった。
- エ 近松門左衛門は義理と人情の板挟みに悩む人々の姿を、人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本によって描いた。
- オ 西山宗因は『笈の小文』を著した。

問2 下線部(b)に関するもっとも適切な説明を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

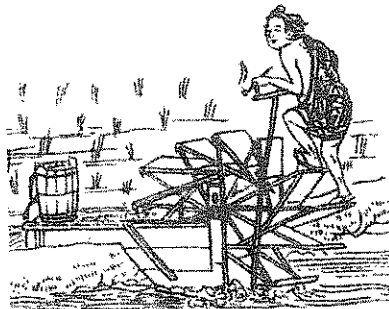
- ア 男女の好色生活の描写を特色とする好色物である。
- イ 武家の生活を描いた武家物である。
- ウ 歴史上の事実取材した時代物である。
- エ 当時の世相に取材した世話物である。
- オ 町人の経済活動を写實的に描写した町人物である。

問3 下線部(c)の「唐箕」と下線部(d)の「千石碓」を、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

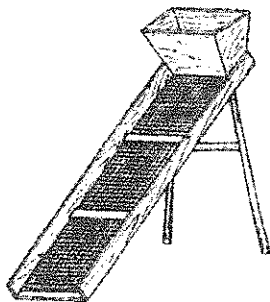
ア



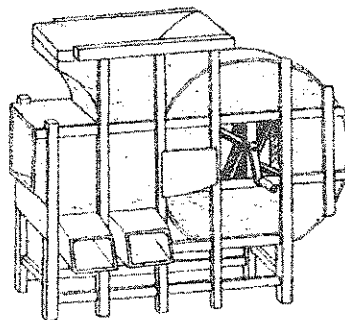
イ



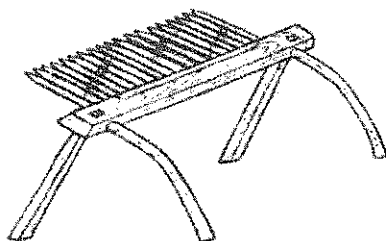
ウ



エ



オ



問4 下線部(e)にあてはまる農書を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 『農業全書』 イ 『老農夜話』 ウ 『農具便利論』
エ 『会津農書』 オ 『耕稼春秋』

問5 下線部(f)に関して、江戸時代に金肥として用いられていたメ粕の説明としてもっとも適切なものを、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 油菜の菜種や綿実などから油をしぼった残りもの。
イ 鰯や鯨などの魚や胡麻・豆などから油をしぼり取った残りもの。
ウ わら・落葉などを積み重ね、腐らせて作ったもの。
エ 草や木を燃焼させた残りもの。
オ 鰯や鯨を日干しにしたもの。

問6 下線部(g)として重視された植物に「四木三草」がある。以下のア～オの中から「三草」にあたるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 茶 イ 麻 ウ 楮 エ 漆 オ 桑

問7 下線部(h)は荻生徂徠が将軍に献上し、彼の意見を述べた書物である。荻生徂徠が下線部(h)を献上した将軍Aと、下線部(i)の頃の将軍Bの氏名の組合せとして適切なものを、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 将軍Aは徳川綱吉、将軍Bは徳川家光である。
イ 将軍Aは徳川吉宗、将軍Bは徳川家光である。
ウ 将軍Aは徳川綱吉、将軍Bは徳川吉宗である。
エ 将軍Aは徳川吉宗、将軍Bは徳川綱吉である。
オ 将軍Aは徳川家光、将軍Bは徳川綱吉である。

問8 下線部(i)に関して、旧国名とその特産物の組み合わせとしてもっとも適切なものを、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 駿河の紅花 イ 越前のみかん ウ 阿波の藍玉
エ 紀伊の奉書紙 オ 出羽の茶

B. 江戸時代には交通の整備も進んだ。陸上交通については、五街道が江戸を起点とする幹線道路として整備された。これらの街道の宿駅には問屋場がおかれ、問屋や年寄、帳付などの宿役人が伝馬役の差配や継飛脚にあたった。水上輸送については、江戸時代の初期には長崎の末次平蔵、摂津の 、京都の や茶屋四郎次郎などの商人によって朱印船による国際海上輸送が盛んに行なわれたが、やがて禁止された。国内の河川舟運については によって富士川・高瀬川の開削が行われた。国内の海上輸送については によって東廻り海運・西廻り海運が整備された。

問9 文中の ～ にあてはまる人物を、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 奈良屋茂左衛門 イ 河村瑞賢 ウ 末吉孫左衛門
エ 角倉了以 オ 紀伊国屋文左衛門

問10 下線部(k)のうち、碓氷に關所がおかれた街道を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 日光道中 イ 甲州道中 ウ 中山道
エ 奥羽道中 オ 東海道

問11 下線部(1)の説明としてもっとも適切なものを、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 民間営業による飛脚である。
- イ 諸大名が江戸の藩邸と領国を往復させた飛脚である。
- ウ 前島密の建議で発足した制度である。
- エ 江戸幕府の公用の飛脚である。
- オ 駄鈴を持つ公用の役人(駄使)のみが利用できた制度である。

C. 江戸時代には豪商が出現した。 [(4)] が開いた越後屋呉服店は「現金(銀)かけねなし」という商法で繁盛した。 [(5)] は摂津で清酒を醸造して産を成した。住友家は4代目が現在の愛媛県に [(6)] を発見し、富を増した。 [(4)] と [(5)] は両替商でもあった。両替商とは金・銀・銭の三貨の両替や秤量を商売としていた商人のことである。
(m) (n) (o)

問12 文中の [(4)] , [(5)] にあてはまる豪商を、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 古河家 イ 三井家 ウ 安田家
- エ 鴻池家 オ 岩崎家

問13 文中の [(6)] にあてはまる鉱山を、以下のア～オの中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 別子銅山 イ 石見銀山 ウ 足尾銅山
- エ 生野銀山 オ 尾去沢銅山

問14 下線部(m), (n), (o)の単位として適切なものを、以下のア～オの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 貫・文 イ 石・斗・升・合 ウ 両・分・朱
- エ 貫・匁・分・厘・毛 オ 里・町・間・尺

〔Ⅲ〕 次の史料A～Hと、二つの内閣に関連する言葉を読み、下記の問いに答えよ。

〔史料〕

〔備考〕 史料は一部省略したり、書き改めたりしたところもある。

A 日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、……再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

B ……其支那朝鮮に接するの法も隣国なるが故にとて特別の会釈に及ばず、正に西洋人が之に接するの風に從て処分す可きのみ。悪友を親しむ者は共に悪名を免かる可らず。我れは心に於て亜細亜東方の悪友を謝絶するものなり。

C 七 日中兩國間の国交正常化は、第三国に対するものではない。兩國のいずれも、アジア・太平洋地域において覇権を求めべきでなく、このような覇権を確立しようとする他のいかなる国あるいは国の集団による試みにも反対する。

D 第二号 日本国政府及……

第一条 両締約国ハ旅順大連租借期限並南滿州及安奉兩鐵道各期限ヲ何レモ更ニ九十九ケ年ツツ延長スヘキコトヲ約ス……

E 第三条 日本国は、北緯二十九度以南の南西諸島、……並びに沖の鳥島及び南鳥島を合衆国を唯一の施政権者とする信託統治制度の下におくこととする國際連合に対する合衆国のいかなる提案にも同意する。

F 第二条 一九一〇年八月二十二日以前に大日本帝国と大韓帝国との間で締結されたすべての条約及び協定は、もはや無効であることが確認される。

G 第五条 各締約国は、日本国の施政の下にある領域における、いずれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従って共通の危険に対処するように行動することを宣言する。

H 十三、吾等ハ日本国政府カ直ニ全日本国軍隊ノ無条件降伏ヲ宣言シ且右行動ニ於ケル同政府ノ誠意ニ付適当且充分ナル保障ヲ提供センコトヲ同政府ニ対シ要求ス……

[内閣]

内閣1 「聖域なき構造改革」

内閣2 「戦後政治の総決算」

問1 史料A～Hについて古いものから年代順に配列したとき、2番目、4番目、7番目に来る史料の記号を解答欄にマークせよ。

問2 下の(1)～(8)は、史料A～Hとそれらの下線部(a)～(i)、内閣1、2に関連した正誤問題である。以下の各文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして正しいものを、下の解答群ア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

[解答群]

ア	X	正	Y	正	イ	X	正	Y	誤
ウ	X	誤	Y	正	エ	X	誤	Y	誤

- (1) X (b)案の衆議院の修正段階では、幣原喜重郎の発案により、戦力不保持に関する条項に、「前項の目的を達するため」との字句が加えられ、自衛のための軍隊保持にふくみを残した。
- Y (b)の起草段階では、高野岩三郎が委員長を務める憲法問題調査委員会が政府内に設置され、試案を出したが、GHQに拒否された。
- (2) X (b)の精神に基づき、民法が改正され、家中心の戸主制度が廃止され、家督相続制度にかえて財産の均分相続が定められた。
- Y 史料Aが宣言するように、(b)は(a)によって制定された民定憲法である。前憲法は欽定憲法であったため、形式上これを停止した上で、新たに(b)が制定された。
- (3) X 史料Bの筆者は、雑誌『国民之友』を刊行し、一般国民の生活向上と自由の拡大を唱え、後に対外膨張論に転じて、日本の大陸進出を肯定した。
- Y 史料Bが発表された年、日清両国は(c)から撤兵し、今後(c)に出兵する場合は互いに事前通告することを約束した。

- (4) X 史料Bの筆者は、『文明論之概略』の中で、個人の自主独立と国家の独立のためには、西洋文明の摂取が急務であると説いた。
- Y 史料Bは『時事新報』の社説の一部で、この筆者が期待していた(c)の親日改革派が政権を追われた時、これを発表した。
- (5) X 史料Cを含むこの時の日中間の合意によって、日本は戦争における加害責任を認め、反省する態度を表明し、中国は日本に対する戦争賠償の請求を放棄した。
- Y 史料Cを含むこの時の日中間の合意によって、日本と台湾の国民政府との外交関係は断絶したが、貿易など民間レベルでは日台の密接な関係が続いている。
- (6) X 福田赳夫内閣は(d)を実現し、内需拡大をかかげて貿易黒字問題・円高不況に対処したが、自民党総裁選挙に敗れて大平正芳内閣に交代した。
- Y (d)の後、政府は狂乱物価に対応するため、太平洋ベルト地帯に集中した産業を全国の地方都市に分散させ、それらを新幹線と高速道路で結ぶという政策を打ち出した。
- (7) X 史料Dは、満州事変を終息させるために日中間で結ばれた塘沽停戦協定の一部で、この結果、(e)の延長のほか、河北省東北部に非武装地帯が設定された。
- Y 史料Dが日中間で結ばれた結果、南満州鉄道株式会社が旅順に設立された。この会社は旧東清鉄道に加えて沿線の炭鉱なども経営し、日本の満州経営の中核を担った。

- (8) X 史料Dは、第二次大隈重信内閣が袁世凱政府に突きつけ、最後通牒を發してその大部分を承認させた要求の一部である。
- Y 史料Dは、このほか、山東省のドイツ權益の継承、南滿州及び東部内蒙古の權益強化、福建省の他国に対する不割讓の再確認などを含んだものであった。
- (9) X 史料Eの条約が調印された会議には、ソ連と中華民國は出席したが調印はせず、インド、ビルマは条約案への不満から出席しなかった。
- Y 史料Eの条約では、日本が交戦国の戦争被害に対しておもに役務の供与により賠償を支払う義務を定めたが、米国をはじめ多くの交戦国が賠償請求権を放棄した。
- (10) X (g)では、米・英・仏・ソ・中を常任理事国とし、これに10カ国の非常任理事国を加えた安全保障理事会を設け、平和の破壊に対して、軍事行動の実施を含む権限を付与した。
- Y 史料Eは、(f)による小笠原諸島と南西諸島の信託統治を予定したものであったが、(f)は(g)に提案せずに施政権下においた。
- (11) X 日韓会談は植民地時代の事後処理・漁業問題で中断と再開を繰り返したが、朴槿惠政権成立後、1964年末からの第7次会談を経て、史料Fの条約が調印された。
- Y 国交樹立を定めた史料Fの条約とともに、漁業、請求権・経済協力、在日韓国人の法的地位、文化協力の4協定が結ばれた。

- (12) X 史料Fの条約では、韓国政府が「国際連合総会決議第一九五号(四)に明らかに示されているとおりの朝鮮にある唯一の合法的な政府であることが確認」された。
- Y (b)に韓国併合条約が調印され、日本は韓国を植民地化し、朝鮮総督府を京城に設置し、初代総督に伊藤博文を任命して韓国を統治した。
- (13) X 史料Gの条約の承認が衆議院で強行採決されると、反対運動がまきおこり、全学連の学生らによる巨大なデモが連日国会をとりまいたが、条約は自然承認された。
- Y 吉田茂内閣は、史料Eの条約の調印と同じ日、史料Gの条約を(f)と調印した結果、米軍が日本国内に駐留を続け、日本の防衛に寄与することになった。
- (14) X 史料Gの条約では、同盟国が他国と交戦した場合、第三国が交戦相手国側として参戦した場合には他の同盟国も参戦することが定められた。
- Y 史料Gの条約で約束された内容では、このほか、同盟国とソ連との間に現存する政治的状態に何らの影響をも及ぼさないことが確認された。
- (15) X 史料Hを受け入れた結果、日本は連合国に占領された。占領軍の要求は法律の制定を待たずに勅令によって実施に移された。
- Y 史料Hは、米・英・中の3カ国が、日本の(i)まで徹底的に戦うほか、満州などの中国返還など、日本領土の処分方針をエジプトで決定・発表したものである。

- (16) X 史料Hに対して、「黙殺する」と評した日本政府の対応を拒絶と理解した米国は、原子爆弾を8月6日広島に、8月9日長崎に投下した。
- Y 史料Hの発表に先立ち、米・英・ソの3カ国首脳会談が行われ、ソ連の対日参戦、南樺太のソ連への返還、旅順・大連の自由港化などを約す協定が結ばれた。
- (17) X 内閣1が発足する15年前、株価と地価が下落しはじめたことをきっかけにバブル経済が崩壊し、以後、大量の不良債権を抱えた金融機関の経営が悪化した。
- Y 内閣1では、首相として初めて朝鮮民主主義人民共和国を訪問し、金正日総書記と会談した。この中では日本人拉致問題をはじめ、多くの課題が明らかになった。
- (18) X 内閣2は、前首相が航空機売り込みをめぐる収賄容疑で逮捕される最中の衆議院総選挙で、自民党結党以来初めて衆議院の過半数を割り込み、総辞職した。
- Y 内閣2では、行財政改革を推進し、電電公社・専売公社・国鉄の民営化を断行し、これらはそれぞれNTT・JT・JRになった。